

平成 30 年 12 月 6 日

学校法人聖ヶ丘学園 聖ヶ丘教育福祉専門学校
平成 30 年度教育課程編成委員会報告書

学校法人聖ヶ丘学園聖ヶ丘教育福祉専門学校校長
教育課程編成委員会委員長
井 上 貴 恭

平成 30 年度、教育課程編成委員会を実施しましたので、下記のとおり報告します。

1 委員〈11名〉

横浜国立大学教育学部教授	園田 菜摘
横浜国立大学教育学部准教授	藤井 佳世
認定こども園山王台幼稚園・風の子こども園園長	田野岡由紀子
なかまちっこ じゃんぷ園園長	小川 和代
育和幼稚園副園長	齊藤久美子
うみの風保育園園長	秋山菜穂美
学校法人聖ヶ丘学園 聖ヶ丘教育福祉専門学校 校長	井上 貴恭
〃	副校長 今村 雅彦
〃	事務長 渡邊 慶信
〃	実習指導部長 渡辺 潤一
〃	就職指導部長 亀田 良克

陪席者〈2名〉

学校法人聖ヶ丘学園 聖ヶ丘教育福祉専門学校	黒石憲洋 教務部員
〃	齊藤裕美 教務部員

2 教育課程編成委員会開催日時

第1回 平成30年 9月11日(火) 16時~17時30分

第2回 平成30年10月10日(水) 16時~17時30分

〈開催場所〉 聖ヶ丘教育福祉専門学校 1階 会議室

3 委員会次第

第1回委員会次第

(1) 学校長挨拶

(2) 委員紹介

- (3) 教育課程編成委員会について
- (4) 平成29年度教育課程編成委員会に係る措置状況について
- (5) 質疑応答
- (6) その他

第2回委員会次第

- (1) 学校長挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 平成29年度教育課程編成委員会に係る措置状況について
- (4) 質疑応答
- (5) その他

4 議事報告

平成30年度教育課程編成委員会改善報告

(別添資料参照)

平成 30 年度教育課程編成委員会改善報告

平成 30 年 12 月 6 日
 学校法人聖ヶ丘学園
 聖ヶ丘教育福祉専門学校
 校長 井上 貴恭

【平成 29 年度教育課程編成委員会に係る措置状況について】

項目	現在の状況報告	委員からの提言	今後の対応措置
① 学生による授業評価アンケートの継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 従来から実施している『「学生による授業評価アンケート」結果による「授業の振り返りと今後の指導」について』の用紙に、「授業改善の必要を感じる」「授業改善の必要を特に感じない」の項目を追加した。また、【授業評価アンケートから見えた課題点及び改善策】記入欄は、授業改善の必要を感じると答えた教員のみ記入する形式に改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> 評定値が2点台の教員で「改善しない」と回答しているのは問題であり、「授業改善の必要を感じる」か否かを問う項目は、本当に改善の意思があるのかの確認になるとともに、良い意識付けにもなるため、教員が自発的に授業改善することを促すことができると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 評定値が低い教員を対象とした授業改善のためのFD施策を検討していく。
② 常勤及び非常勤教員の協業体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に講師懇談会を実施し、同一教科を担当する教員同士でのシラバス内容の検討をおこなっており、協業体制はおおむね構築されている。 文科省の方針を受ける形で、同一科目についてはシラバスの統一化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と実習先においても協業体制は重要である。引き続き協業体制の充実を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もシラバス内容を精査し、内容の向上を図る。
③ 情報機器の操作スキル向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 従来、ワープロソフトや表計算ソフトのスキルについては「情報機器の操作」の授業内で取り扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> エクセル・ワードの技術を身に付け、園だより等をパソコンで作成できるようになるとよい。また、パワーポイントを使用してプレゼンテーションできる能力も大切である。現場に出た時に自分の考えを発言できる学生を育成してもらいたい。 保育実践演習の発表会でパワーポイントを使用することを必須にしてはどうか。普段から学生が空き時間などにパワーポイントを使用できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション・ソフト（Microsoft PowerPoint）については、他の科目では情報機器使用に教室移動が必要となり、実施が困難であるため、「情報機器の操作」の担当教員に授業内での指導を依頼することを中心に検討をおこなっていく。

(別添資料)

<p>④ 保育士としての教養の習得</p>	<p>・例年同様、児童文化に関する教養を深めることを目的とした「読書ノート」(実習指導部)の取り組みを実施した。</p>	<p>・保育実践演習にて保育者になる上で大切となる図書を指定して発表することを義務づけるとよいのではないか。 ・学校とアルバイトの経験しかないような学生もいるため、児童文化財などに積極的に触れることができるサークル活動があるとよいのではないか。 ・「読書ノート」の名称変更を検討されたい。例えば、絵本を教材として何故その絵本を選んだのか、選んだ意図、教材としてどのように活かすのか、実際の子どもの様子からの考察をおこなうなどを検討してはどうか。その場合、「絵本の教材研究」等の名称が適切である。</p>	
<p>⑤ 「教育・保育実地研究」及び「保育実地研究」について</p>	<p>・平成30年度より、一部で「教育・保育実地研究」(幼保科)と「保育実地研究」(保育士科)を必修科目とした。</p>	<p>・実習への心構えが不十分な学生もいるため学校と実習先が連携をしながら学生を見守っていく必要がある。</p>	<p>・委員からの提言を踏まえ、シラバスや運営の適切性について検討し、今後さらに充実したものと見直ししていく。</p>
<p>⑥ よりよい実習日誌を書くための文章力等の向上の取り組み</p>	<p>・例年同様、文章力向上を目的とした読書感想文「私の読書メモ」(学力向上推進チーム)の取り組みを実施した。</p>	<p>・実習日誌には子どもの活動などは膨大に書かれているが、気づきや考察が薄い。エピソード記録を通して自分及び子どもの行動の意味づけをする習慣をつけてもらいたい。対象を1人に絞って子どもを観察し、その子の育ちのストーリー全体を考えてみてほしいのではないか。 ・日誌は、誤字脱字が多く見られるため丁寧に書く指導をしていただきたい。 ・実習日誌の考察は、難しく書くより、感じたことを伝える、感じる力、表現する力が大切で、子どもの心の育ちを如何に次の保育につなげるかが重要である。時系列を記述するのではなく、エピソード欄にもっとも心に残ったことを保育指針の文言を用いながら記述する中で保育の過程を振り返り、その考察を通して学びを深めてもらいたい。</p>	<p>・課題図書の内容を学生が発表する演習の取り組みに関して、各保育実践演習(ゼミ)または教職実践演習の授業内での発表を検討中である。さらに、学生の読書を促す具体的な指導のあり方を検討していく。</p>

(別添資料)

<p>⑦ 一般常識やマナー等の習得</p>	<ul style="list-style-type: none">・例年同様、マナーに関しては「就職指導ガイドブック」及び「チョットひとこと 2018 (社会人としてのマナー)」(いずれも就職指導部)を用いた指導を実施した。・8月1日付けで「SNSの利用方法について(注意喚起)」を作成し、全生徒へ配布・指導をおこなった。・後期からは、初回の授業時にて学生へ注意喚起するルールの統一化を図り、専任・非常勤教員ともに共通の指導が徹底できるようにした。・10月29日に「インターネット被害未然防止講座」(NPO情報セキュリティフォーラム)を実施した。	<ul style="list-style-type: none">・SNS等の使用やマナーについては前年度にも指摘したが、時期としては年度初めのオリエンテーションや学外実習の事前指導前に指導が必要である。・一般常識やマナーについては、現場の先生方にお話ししていただいた方が、学生に分かりやすく伝わりやすいのではないかと。	<ul style="list-style-type: none">・SNS等の使用やマナーの指導については、最適な実施時期や講師担当者を見直していく。・どこまでを教育課程の中で担保すべきであるかも含めて、今後検討をおこなっていく。
-----------------------	---	--	---